

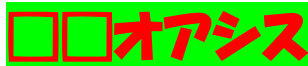
「肝心閑話」

校訓：自主 責任 奉仕 協力

(文責：校長)

よく学び、共に生きる生徒 ①正しく考える ②愛する ③尊ぶ

確かな学力 思いやりの心・たくましい体 豊かな人間性 主体的な生活設計 郷土を愛し、郷土に生きる力



「おはようございます。」「ありがとうございます。」「しあわせだなあ。」「すみません。」

「柿食えば 鐘が鳴るなり 法隆寺」

1895年10月26日、俳人・正岡子規が奈良旅行で詠んだ有名な歌がこれでした。子規はその後、カリエスで病床にありながら「根岸庵俳句会」を主宰し、近代短歌の確立に尽力しました。1897年には、夏目漱石の「吾輩は猫である」が連載された雑誌としても有名な俳誌「ホトトギス」を発刊しています。

子規の歌には、私たちの琴線に触れるものが多いと思います。

いくたびも 雪の深さを 尋ねけり

真砂なす 数なき星の 其中に 吾に向ひて 光る星あり

いちはつの 花咲いて 我目には 今年ばかりの 春行かんどう



ところで、法隆寺といえば、宮大工、西岡常一氏がこんな言葉を残しています。

「癖のある（ ）を使うのは厄介だが、うまく使えばその方がいいこともある。

癖のある（ ）ほど、その命も強い。反対に癖のない（ ）は弱い。

癖のある（ ）は何も悪いものではない。要は使い方次第である。」

（ ）に入る言葉は何でしょうか？ 答えは、当然「木」です。西岡氏は、木の個性を見抜いて使う方が強いし、耐久年数も長いのだが、最近は個性を優先するより平均化してしまった方が仕事が早いので、安易に使い易い木を用いていると嘆かれています。

ところで、（ ）には、「人間」という言葉を入れても、おかしくないですね。事実、西岡氏は、人間も木と同じで、癖のある人材を求めたいと述べられています。

癖は、その人のトレードマークでもあります。悪い癖なら直さないといけないかもしれませんが、そうでなければ、何も人と同じようにする必要はないのです。「癖のある木ほど強い。」というのは、人間にも当てはまるでしょう。生徒の中にも一癖も二癖もある生徒がいますが、そういう生徒こそ、『宝物』だと思って（敬遠せず）、接するようにしたいものです。

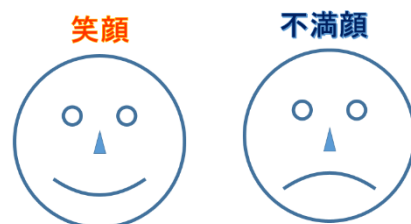
「一笑一若」

「笑う門には福来たる。」「笑いは百薬の長」、といわれますが、笑いがストレスを発散させるのに効果があることは、誰でも経験的に感じているでしょう。よく笑う人は病気にもなりにくいそうです。

ガン患者とヨーロッパ・アルプス登山に挑戦し、「生きがい療法」をすすめている伊丹仁先生が、患者に吉本興業の漫才を見せて、3時間後にガンなどの腫瘍細胞を殺す働きを持つナチュラル・キラー細胞の活性度を調べた結果、笑った後の検査では、すべて正常値に向かっていました。

反対に「一怒一老」と言われるように、人間は、怒ると脳内にノルアドレナリンなどのホルモンが分泌され、体を老化させます。

ストレス学説の権威ハンス・セリエも、無理してでも笑うことを勧めています。よく笑う人は、ジョギングしたのと同じくらい、肉体を使うので、「笑いは体のジョギング」だという人もいます。



笑顔のコツは「口の形」

人生の考え方・生き方がその人の顔を作る。



イタリアで語られている伝説の顔の話です。

レオナルド・ダ・ヴィンチが『最後の晚餐』を描くのに、なんと 20 年かかったそうです。(公式記録では 1495 年から制作に取りかかり、1498 年に完成したとされていますが…。)



NHK による CG 画像

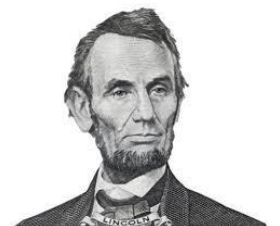
この絵はサンタ・マリア・デッリ・グラッツェ教会付属の食堂の壁画として描かれた、420× 910 cm の巨大なものです。ダ・ヴィンチはテンペラという手法でこの絵を描いたので、痛みが激しく、近年修復されて、その姿が明らかになっています。

2003 年、アメリカで出版されたダン・ブラウン著作の長編推理小説『ダ・ヴィンチ・コード』(The Da Vinci Code) では、イエスの右、こちらから見てイエスのすぐ左の 3 人の弟子が話題となりました。イエスの右隣に座る人物は弟子のヨハネではなく、マグダラのマリアとされ、裏切り者は殺してやりましようと言わんばかりに立ち上り、ナイフを握る右手を腰にしたのがペトロ。そして、右手にはイエスを売り渡して得た銀貨を入れた袋を握り、自分のことが言われていると分かっているのか、身を引いているのが裏切り者のユダです。

さて、ダ・ヴィンチが最初に描いたのがキリストでした。町を出て、公園を歩いていた時に、非常に目が澄んでいて、肌がきれいで、すがすがしい好青年を見つけ、モデルになってくれるよう頼んだそうです。その後、徐々に 12 人の弟子を描くのですが、最後に残ったのが裏切り者のユダでした。ユダだけが描けなくて、10 年以上苦しんでいたのだそうです。

ある日、ダ・ヴィンチは酒場の薄暗い片隅に、人生の悲哀とか、裏切りとか、憎しみ、妬み、嫉みみたいなものを全身に背負っているような男を見つけました。その男にモデルになって欲しいと頼み、『最後の晚餐』は完成したのです。「ああ、やっと描けた」とダ・ヴィンチが安堵の息を吐いた時、そのモデルの男の目から涙がこぼれます。「どうされたか。」と問うダ・ヴィンチに、そのモデルの男は、「あなたは私を忘れたのですか。20 年前にモデルとしてキリストの絵を描いてもらったのに、20 年たって再び描いてもらったら、裏切り者のユダであつたからです。」と答えました。この 20 年間、このモデルの男は、常に人の悪口を言い続けていました。世の中のこと、人のこと、恨み言、憎しみ言をずっと言い続けていたそうです。あの人にはひどい人だとか、不平不満・愚痴・泣き言・悪口・文句を言い続けてきた結果、キリストのモデルになった人が、人生の敵意と憎しみを一身に背負った裏切り者のユダの顔のモデルになってしまったのです。

アメリカ第 16 代大統領エイブラハム・リンカーンは、「**40 歳以上の人間は自分の顔に責任を持て**」(Man over forty is responsible for his face.) と述べていますが、人間は、普段考えていることが顔に出るのです。毎日、「嬉しい」「楽しい」「幸せ」と考えている人は、人から頼まれやすい笑顔になり、反対に、不平不満・愚痴・泣き言・悪口・文句ばかりを言っている人は、人から嫌われる顔になっていくのです。



私たち教師は生徒たちに単に勉強を教えているのではなく、人生の考え方や生き方を学ばせているのですから、教師としての顔に責任を持たなければならないと思います。